

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



旱魃で干上がった恒山ダム(渾源県)。湖底はかっこの放牧場と化した

### Contents

- 運営懇談会に参加しませんか! ..... P 2
- 霊丘植物園の鳥類—猛禽の初記録 ..... P 3
- 大同トピックス 2009年夏 ..... P 4

2009.9

129

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

## 運営懇談会に 参加しませんか！

大同における環境協力もまもなく18年になります。その間にいろんなプロジェクトにとりくみ、やっと成果が目に見えるようになってきました。そして、中国全体でも、大同でも、大きな変化があり、すさまじい規模とスピードで進行中です。

このようななかで、緑の地球ネットワークの環境協力事業にも変革が求められています。これまで緑の地球ネットワークの活動にご協力をいただいたみなさんに、さらに一步、前にでて、この事業の推進役になっていただきたいのです。

6月の第15回会員総会で、世話人会(特定非営利活動促進法上の理事会)とはべつに「運営懇談会」(仮)を設置す

ることを決めました。オープンな集まりですが、同時に固定メンバーをつくりたいのです。

これまで、会員の方のGENの活動に関するご意見・ご提案を直接うかがう機会は年に1度の会員総会とその後の懇親会ぐらいでした。会員総会はその性格上、事業報告と決算が中心で先のことをじっくりと話し合うには時間が足りません。懇親会でお酒まじりにもりあがった話もなかなか後がつづきません。それとは別に、将来にむかっての構想や希望を自由に論じあう場がぜひとも必要だと考えました。みなさんの知恵や経験を生かし、実働にまでつなげるチャンスもあるかもしれません。またメーリングリストなどで日常的な

交流の場もつくりたいと思います。

2009年度については以下の日程と会場を準備しました。顔を出してみるか、という方はGEN事務所までご連絡ください(すでにご連絡いただいている方はけっこうです)。

### ●大阪会場

▼日時= 11月14日(土) 13時30分～16時30分

▼会場= 大阪市立総合生涯学習センター第5研修室(大阪駅前第2ビル5階)

### ●東京会場

▼日時= 11月19日(木) 18時30分～20時30分

▼会場= 立教大学池袋キャンパス五号館1階第1・第2会議室

自由な話し合いにしますが、参加の意思表示をいただいた方にはいちおうのテーマを後日連絡いたします。

## いまあぐできる GEN への協力

### ■会員になってください！

まだ会員になっていない方、ぜひ会員になってGENの活動をささえてください。また、環境問題や国際協力に関心をお持ちの知り合いに、会報の購読などをおすすめください。会費は4～5ページの下部をご参照ください。なお、GEN年会費には会報購読料がふくまれています。

### ■会報を購読してください！

GENの活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読してみてください。年間購読料2,000円。

### ■みみずく基金にご協力ください！

緑色地球ネットワーク大同事務所直轄プロジェクトの運営を支えるために、1口1万円で寄付を募っています。A. 環境林センター、B. 霊丘自然植物園、C. 白登苗圃、D. かけはしの森、E. カササギの森の5つからお選びください。指定のない場合は、事務局で決めさせていただきます。

### ■緑化基金、運営カンパもとむ

金額はいくらでもけっこうです。GENへの寄付は、税制上の優遇措置の対象となります。みなさんの応援をお願いします。

\*みみずく基金、緑化基金の20%は事務管理費になります。

### ■ビデオ『よみがえる森』ご購入を！

沙漠化、水不足など黄土高原の環境問題とGENの緑化協力を30分にまとめました。価格は5,000円、GEN会員価格は4,000円(送料別途)です。教材にも好適。小学校高学年から。

### ■古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでもOK。周囲を1cmほど残して切り取ってお送りください。未使用切手も大歓迎です。

### ■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを回収しています。通信費にあてています。

### ■外国コイン・商品券などを集めています

使うあてのない図書券、文具券、

各種商品券、外国コインがありましたらお送りください。

### ■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。ボランティア可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときにGEN事務所から連絡します。

\* \* \* \* \*

### 【GENは認定NPO法人です】

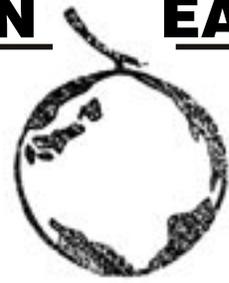
2005年6月から国税庁から認定NPO法人の認定を受け、09年6月から第3期目の認定が決まりました。今回の認定期間は5年間です。

GENへの寄附金は寄附金控除の対象となります。個人の場合は「寄附金額-5,000円」を所得金額から控除することができます。法人の場合は損金に算入することができます。相続・遺贈による寄附は相続税の課税対象から除かれます。

GENの場合寄附金となるのは、緑化基金・運営カンパ・みみずく基金と、会費のうち1口以上の部分・賛助会費から12,000円をひいた金額です。くわしくはお問い合わせください。

## 霊丘自然植物園の鳥類—猛禽の初記録

池本 和夫 (GEN 会員)



霊丘自然植物園は今年(2009年)で満10年になります。緑の地球ネットワーク(GEN)は大同地域本来の植生を見つけて緑化に使う樹種を増やしたり、新しい樹種の生育試験をしたり、自然観察の場所にしたりするために、1999年3月にこの植物園を開設しました。

植物園は霊丘県上寨鎮南庄村から歩いて1時間ほどの距離で、86ヘクタールの面積があります。開設当初から地元の南庄村と協定して、用地内ではヒツジやヤギなどの放牧と柴刈りを禁止

しました。2000年秋には管理棟が完成し、職員が1人寝泊まりして、付近の農民が入山して放牧したり、山火事を起こしたりしないように見張りをしています。

私が初めてGENのワーキングツアーに参加したのは1999年3月です。ツアーの3日目、3月27日に、南庄村のはずれの山のふもと、数本のポプラがまわりに生えている小さな池のほとりで、地元の関係者出席のもとに植物園の起工式がおこなわれ、そのあと、近

くの斜面にマツの苗を植えました。この時私たちが植樹している様子は、橋本紘二さんの写真集『中国黄土高原』(写真番号88)に載っています。その時のマツは、10年後の今年3月に調べたら、高いものは2.5m、多くは人の背丈ほどに育っていました。

このツアー初体験で私の気持ちは高揚していました。何か自分にできることでGENに協力したいと思ったのです。帰国後にあった(4ページ下につづく)

表：霊丘自然植物園の鳥類

和名	学名	2000春	2003春	2006春	2009春	生息状況・注記
1. アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>		1*		3	留鳥 *単位は羽(以下同じ)
2. ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>	2	1	2	2	留鳥
3. ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>		(1*)			留鳥 *範囲外(植物園の隣接地)
4. モズ類	<i>Lanius sp.</i>		1			
5. ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>				1	留鳥
6. サンジャク	<i>Urocissa erythrorhyncha</i>	3	声1	5	4	留鳥
7. カササギ	<i>Pica pica</i>		(上空2)	3	4	留鳥
8. ベニハシガラス	<i>Pyrhcorax pyrrhcorax</i>		(上空4)	(上空8)	(上空3)	留鳥
9. ノドグロツグミ	<i>Turdus ruficollis</i>	2*		2*		冬鳥 *亜種ノドアカツグミ
10. ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	4		5	6	夏鳥
11. ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureoreus</i>	3	4	3	2	夏鳥
12. ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>		1			留鳥
13. シジュウカラ	<i>Parus major</i>		3	3	6	留鳥
14. エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>		3	2	4	留鳥
15. カラチメドリ	<i>Rhopophilus pekinensis</i>		5±	5	3	留鳥
16. キタガビチョウ	<i>Garrulax davidi</i>	2				留鳥
17. ダルマエナガ	<i>Paradoxornis webbianus</i>		8		約47	留鳥
18. スズメ	<i>Passer montanus</i>		1			留鳥
19. ヤマヒバリ	<i>Prunella montanella</i>	1	2	4		冬鳥
20. アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>				1	冬鳥
21. カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	2	9	15	10	留鳥
22. コウザンマシコ	<i>Carpodacus pulcherrimus</i>	? ♀2		5	1	冬鳥
23. ヒゲホオジロ*	<i>Emberiza godlewskii</i>	5±	7	3		留鳥 *新和名ミヤマヒゲホオジロ
24. ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	5±	7	13	8	留鳥
種数の合計*		11種	15種	14種	15種	* ( ) の範囲外・上空通過は含めない
羽数の合計*		約31羽	約54羽	70羽	約102羽	* ( ) の範囲外・上空通過は含めない

和名：山階芳麿(1986)『世界鳥類和名辞典』大学書林

学名・配列：John MacKinnon et al. (2000) A Field Guide to the Birds of China. Oxford University Press

生息状況：樊龍鎖ほか編(1998)『山西両棲爬行類』中国林業出版社

# 大同トピックス～2009年夏

高見 邦雄 (GEN 事務局長)



水不足でしおれるトウモロコシ

## ◆きびしい旱魃

中国の北部、西部の広い範囲でたいへんな旱魃です。中国政府は旱魃警戒のレベルをあげ、救済食糧など支援策を打ち出しています。大同も例外ではありません。作物の生育がよくありません。中国のトウモロコシは草丈が高く、水さえあれば2m以上に伸びます。ところがことしは穂をだす時期になっても1mもありません。そのうちに葉

がしおれてきました。収穫はまったく見込めないよう。それなりに伸びているのは、地下水による灌漑が可能なところだけです。西暦の奇数年でいい年はありません。1999年は「建国いらい最悪の旱魃」、2001年は「百年に一度の旱魃」といわれました。2001年なんか、夏になっても山が茶色いままだったのです。

私の印象では、ことしはそこまでひどくないのです。ところが、農民の話をきくとちがいます。「2001年は春からひどい旱魃で、耕すことも、種を蒔くこともできなかった。ことしは春は雨が降ったので、種を蒔き、手入れを重ねてきた。夏になって雨が降らなくなり、収穫は期待できない。だからことしのほうが被害が大きい」というのです。庭先でアズノの種を取り出す



そして、大同のなかでもムラがあります。北部の大同県などはまったくといっていいほど雨がありません。南部の霊丘県ではゲリラ的な豪雨があり、南天門自然植物園への道は2度も流されてしまいました。

## ◆アズノがことしは実りました

昨年BS朝日が「よみがえる緑の大地～中国黄土17年目の挑戦」を制作し、放映しました。番組の舞台のひとつが渾源县呉城村。アズノの収穫で盛りあげたかったのに、5月になってからの凍害で、大半の実が落ち、残念な結果に終わりました。

暖冬つづきで年々、開花時期が早ま

(3ページからつづく) 関東ブランチの会合で、今後数年ごとに鳥の観察をして植物園の変化を鳥を通して見つめたい、と話しました。翌2000年3月も春のツアーに参加して、初めて植物園で鳥を調べました。その後、2003年春、2006年春と続けて大同に行き、今年3月は4回目の鳥類調査をしました。

植物園は開設以来、家畜の放牧や草木の伐採を禁止する封山育林を実施した結果、今までは育つそばから食われていた草や木は目に見えて回復してきました。高見邦雄さんの「黄土高原だより506号」(2009.06.10)によると、ナラ、シナノキ、シラカンバ、トネリコなどの落葉広葉樹が中心になって森林が急速に再生してきています。それに伴って、動物も増えていると予想されます。動物のうち私が調べた鳥類では、次のように種類や数の増加傾向が見られ、予想通り植物相が豊かになるとともに動物相(鳥類相)も豊かになってきて

います。  
2000年は11種・約31羽、2003年は15種・約54羽、2006年は14種・70羽、2009年は15種・約102羽(いずれも範囲外や上空通過は含めない)観察されました。この10年間で種類は増加から横ばいですが、数は毎年着実に増えています。  
2003年に登場したカラチメドリとダルマエナガは、山地の草叢や灌木、低木の間で活動する留鳥です。植物園の環境が気に入ったようで、その後毎回のように観察されています。ダルマエナガは2009年には50羽近い群がいました。このまま定着するとは思えませんが、植物園にはこの数を養うだけの餌とすみかがあるのでしょう。  
同じく2003年にスズメが新たに記録されました。スズメは人里にしかいない鳥です。管理棟に職員が寝泊りするようになって環境が変化した結果、近くの南庄村から若いスズメが飛んでき

たのでしょう。しかし、植物園にはスズメが個体群を確立できるほどの人間活動はないらしく、その後スズメは見られません。スズメの目で見ると、植物園はまだあまり「環境破壊」が進んでいないのです。  
2009年には1羽のハイタカが餌を探してホバリング(停空飛翔)していました。これは猛禽の初記録です。ハイタカはハトくらいの大きさで、ネズミや小鳥を餌にしています。せっかく植えた苗木を食害するノウサギを食べてくれるといいのですが、一回り大きなオオタカ(Accipiter gentiles)クラスにならないとノウサギは手に負えません。しかしハイタカ1羽とはいえ、食物連鎖の頂点に立つ猛禽が出たことは、それだけ生き物が多くなった証しです。  
次の調査は3年後の2012年春の予定です。どのような変化があるか、楽しみです。



ナラの仲間が3種類生えていることが判明

ります。そのまま暖かくなれば問題はないのですが、4月末から5月初めに寒波がやってくるのがしばしばです。零下2度なら影響がないけれど、零下4度になると、幼果が落ちるそう。日本に帰ってからも、私は大同の天気予報を気にかけていました。

一部に被害はあったものの、ことしは大部分が無事でした。10a (100平米)あたり1,200元 (1元 = 14円)ほどの収入がありました。7月に私が訪れたときにはすでに収穫が終わり、農家ごとに種を取り出す作業中。このアンズは仁用杏と呼ばれ、杏仁を食用や薬用にします。

アンズは早魃にはとても強いことを実証しました。ほかの作物の収穫が期待できないなかで、アンズはそれなりの収穫をもたらしたのです。農家の人たちは「去年よりはずっといい」といって、うれしそうでした。

#### ◆ナラが3種類ありました

霊丘県の南天門自然植物園の海拔1,100m以上のところで、ナラがとてよく茂ってきました。日本からきた人たちはそのようすをみて、「日本の森林と変わらないじゃないですか!」というほど。でも、それは見た目の印象で、実際に測定してデータをだしてみると、まだまだ成長途上です。

林床には落ち葉がたまり、その下にはまっ黒の森林土壌が形成されています。土が肥えれば生育がよくなり、生育がよくなれば落とす葉の量もふえます。あるところから良性の循環がはじまったようです。

ナラというのは、要するにドングリの木。従来はリョウトウナラ (遼東櫟) とばかり思っていたのですが、そのほ

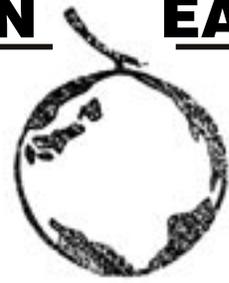
かにモンゴリナラ (蒙櫟) とカシワ (柞櫟、榭樹) が混じっていることがわかりました。なかでもモンゴリナラの割合が高いようです。中国の図鑑によると、リョウトウナラの樹高は15mまでですが、モンゴリナラやカシワはその倍に達します。成長もずっと速い。

あそこの林は、高いところをモンゴリナラとカシワが占め (最大12mほど)、その下にリョウトウナラが茂り、さらにハシバミ、ウツギなどの灌木があるという三層構造をなしています。というわけで、楽しみが深まってきました。

#### ◆環境林センターを横切る道路

大同の市街地の大改造がつづいており、その重要な一環が道路建設です。世界的な不況に対処するため、内需拡大がすすんでいるので、スピードアップされました。私たちの拠点の環境林センター (大同市南郊区平旺村) の南端付近を幅56m (片側4車線・側道・緑化帯) の道路が東西に横切ることになりました。

面積としては0.6haほどで、全体の約3%。塩害のひどいところなので、影響は大きくないのですが、15×110mほどが南側に切り離されます。困ったな



環境林センターの南側ですすむ道路工事

と私は思ったのですが、大同のスタッフたちはべつの考え。大きな道路の両側の土地は、店舗などに貸すこともできるし、自分たちの直売店をつくって果物・野菜・花などを売ることもできる、というのです。近くには人口10万人以上の炭鉱住宅がありますから、固定客をつかむこともできそう。

この道路が完成すると、大同市内からの交通が便利になり、所要時間が半減し、また白登苗圃と直線で結ばれます。正門を南側に移し、道路から直接入れるように変えます。中国では南に門があるのが正規です。

道路の完成はことしの10月といえますから、なんとというスピード!

## 今年も専門家派遣を実施

8月30日から9月7日まで、大同への専門家派遣をおこないました。遠田、前中、小川のGEN顧問団をはじめ、総勢9人で霊丘県の南天門自然植物園 (霊丘自然植物園から改名)、霊丘県の空中草原、環境林センター、白登苗圃、かけはしの森をまわりました。カササギの森と采涼山は、雨のために訪れることができませんでした。

南天門自然植物園では長期継続調査地の周辺でキノコを探し、有用なキノコの胞子液をつくりました。秋の花々が美しい空中草原でもキノコを採取しました。環境林センターでは日本から持参した無煙炭化器で炭焼き。センター

で伐採したヤナギを材料に、予想より多くの炭を焼くことができました。白登苗圃・かけはしの森ではマツの苗圃にキノコの胞子液とセンターで焼いた炭をつかった実験を仕込み、アンズの根元にも炭を入れました。

また、訪れた拠点各所で、昨年からの植物園での毎木調査のデータを発表、植物園と調査の意義を再確認し、環境林センターでは炭と菌根菌のはたらきについての講義もありました。

派遣団がやり残したカササギの森での実験については、後に残った高見事務局長がおこないました。広葉樹への効果がみられるか楽しみです。

## 植物屋のこぼれ話 (続編) その26

立花 吉茂 (GEN 代表・花園大学客員教授)

毎日のようにくる湿潤熱帯になったのであろうか！ 沖縄今帰仁村の家で蟻が真っ黒になるほど大量に死んでいた。アメリカのミツバチと同源だろうか？

### ●狂う生物季節

8月上旬というのに梅雨が明けなかった今年、異常気象が当たり前のようになってきている。異常気象の原因は地球の温暖化かもしれないが、もしそうだとすると、地球が狂いはじめたといわねばなるまい。都市にいるものは異常に気づくことが少ないかもしれないが、農山村にいるものやアウトドア趣味の人は異常に気づくのが早かったようである。それは彼らが植物や動物をよく観察しているからである。10年以上も前から植物の異常には気づいていたがここ2～3年急速に異常化が加速しはじめたようである。

花博が大阪で開かれたのが1990年であるからおよそ20年になるが、当時越冬できなかった南方系の植物が雑草のごとく生い茂っているのを見ることがある。たとえばランタナが最近多年生の草か灌木のようになり、せっせと刈り込んでいる人を見かけるようになった。同じくアメリカハマグルマと呼ぶ中央アメリカ原産のツル性キク科植物が、昔からここにいますよ、というように繁茂しているのをよく見かける。こんな例は枚挙に暇がないほどであるが、これらは美しい花で都市に植えられているから生態系への影響もまだほとんどないようであるが、沖縄のセンダングサのように全土を覆いつくすようになると大問題である。

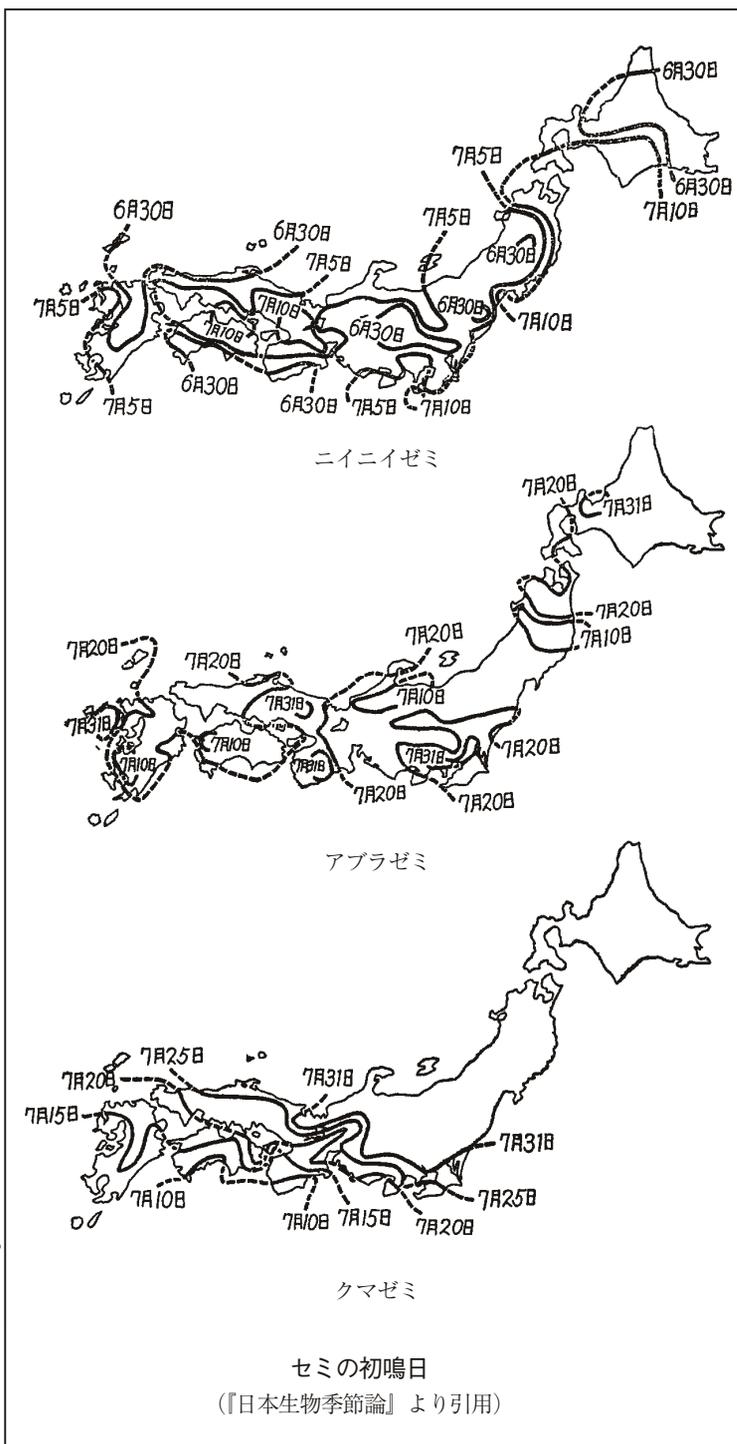
### ●早まるセミの初鳴き

異常気象はまた昆虫の世界にも影響しはじめた。子どものころから親しんでいたセミであるが、京都ではクマゼミは私の誕生日(8月1日)から鳴きはじめるのが普通であったが、最近早くなり7月中旬から鳴いている。気象台のクマゼミの初鳴日は7月31日のラインに乗っている(図)。先日のテレビ報道で、関東地方が北限のクマゼミが東北地方にまで分布が広まったと報じていた。高速道路を走っているトラックの幌にとまってクマゼミが鳴いているのを見たことがある。「これなら北海道

にでも行くやろな」と1人で苦笑いしたものである。

沖縄で7月に魚釣りをしていたら秋に鳴くセミがジージーと鳴きはじめて驚いたものである。これは去年まではなかった現象である。同じく奈良県で7月にニイニイゼミ・アブラゼミ・ミン

ミンゼミ・クマゼミ・ヒグラシが同じ1日にいっせいに鳴いて驚いてしまった。こんなことは子どものころから1度もない。これらは鳴く順番がちゃんと決まっていたからである。今年の6月に大阪で名前のおり秋に飛ぶアキアカネ(トンボ)が飛ぶのを見てびっくりしたものである。生物季節は完全に狂ってしまった。「ニッポン亜熱帯化宣言」という本まで出版されている。北海道に梅雨ができて、本土は亜熱帯、沖縄はスコールが



黄土高原史話〈46〉

## 緑化のしすぎが断流のもと？

谷口 義介（摂南大学教授）

中華の民にとって黄河はまさしく母なる河。だから、ふだん黄色いこの河が澄んだといったら、大騒ぎ。08年、壺口瀑布の上流で河清現象が見られたとき、凶事が起る前触れか、あるいは聖人出現の予兆かと、古典を引きつつ、ネット上で喧し。まして、黄河の流れが絶えでもしたら、国家的な大問題。ところが、1972年、史上初めて起ってから、下流まで水の届かない断流が続発、97年にはピークに達し、330日間も水が涸れた。これは由々しき大事だと、2000年、政府は所管の部署に命令し、ダムから水を放出させ、なんとか流れを復活させた。

では、なにゆえ断流は起ったか。

まず考えられるのは、地球温暖化に起因する気候変動。多雨などころでは豪雨が増加、乾燥地では日照りが加速、という地球規模の傾向だ。黄河の源流・青藏高原もそうらしく、近年ぐっと少雨になった、と。

次にいえるのは、過度の取水。灌漑用・工業用・生活用として大量に汲み取る。特に黄河の水の半分以上をまかなう上流域では、灌漑に水をジャブジャブ使う。中流域でも水を抜く。これでは下流域まで流れてこない。

雨不足+水の大量使用が原因と思えるが、これとは別に一説あり。“いま国家が大々的に実施中の「退耕還林」政策により、黄土高原の森林面積が大幅に増加。雨水が河川に流れ込む前に、木々から水分が蒸散してしまい、それで黄河の水量が減少した”と。

イアン・カルダー（蔵治光一郎・林裕美子監訳）『水の革命』（p.155）も、中国科学院のある会議が表明したという「流量や帯水層の涵養が減少するという、植林することによる水資源への悪影響」説に賛同を示す。

植物はたしかに水を消費する。だから大面積の緑化となると、と説得力があるような。

しかし、段階を追って考えてみるならば。

そもそも1949年の解放時、黄河が流れる黄土高原の森林は8%、その一部の山西省では2.4%しか覆っていない。それが78年に始まった「三北防護林」政策により、山西省では80年代の12%をへて2003年には20%まで回復した、と。98年からは「退耕還林」政策がスタートし、2000年から本格実施、という効果が出たのかも。

しかして黄河の断流は72年からだから、政府が緑化に本気で取り組む78年以前より、それは見られた現象だ。単純推定で、断流が初めて起ったころ、黄土高原の森林被覆率は10%前後ではなかったか。

そこで歴史屋として質問したい。山西省で10%くらいの清の時代、黄河の断流は起っていたか。遼・元-30%、唐・宋-40%時はどうだったか。2000年以上前の秦以前は50%、そのころ黄河は



水源から流れでる湧き水。

滔々と流れ、渤海湾へ注いでいた！

“水収支”も肝腎だが、黄土高原では少なくとも50%くらいまでは緑化が可能ということだ。

ワーキングツアーで行く霊丘自然植物園。落葉広葉樹の多い自然林が回復したが、山裾からの湧水量が増えている（写真）。

清代の地方志によると、同じ黄土高原、山西省の南西側・呂梁山脈の南麓ではそれ以前から、湧き出る泉を利用した清水灌漑農耕あり。山に森林が残っていたのでしょうか。

### GEN 自然と親しむ会

#### 丹後半島で炭と菌根菌を使ったマツの育て方を学ぶ

- 日程：10月24日（土）～25日（日）の1泊2日
- 場所：丹後半島～宮津天橋立
- 指導：小川真さん（GEN 顧問・白砂青松再生の会会長）  
伊藤武さん（京都樹木医会会長）
- 参加費：11,500円（1泊2食、車乗り合わせ分担金、連絡船運賃、旅行保険料を含む）
- 定員：20人（定員をすぎるとお断りすることがあります）
- 参加申込み：10月13日までに GEN 事務所に申し込んでください。  
キノコのたくさん出る時期に丹後半島の海岸砂地でマツ林の手入れ方法、マツの植え方、キノコ採取、名前調べ、胞子の取り方、撒き方、炭の使い方等を実地に勉強します。  
両先生には GEN の緑化協力地・中

国大同でも植林のご指導をいただいています。

車に乗り合わせていきますので、車&運転を引き受けていただける方はお申し出ください。

宿泊は天橋立ユースホステルです。  
くわしくは GEN 事務所までお問い合わせください。

\* \* \* \* \*

★参考文献（小川顧問の新著です）  
『森とカビ・キノコ 樹木の枯死と土壌の変化』小川真著・築地書館  
2,400円+税

よく問題となるマツだけでなく、ナラやサクラ、スギやクリもあちこちで弱り、枯れはじめています。その原因と対処法をさぐります。



地球と世界の今を、  
楽しみながら知る2日間。  
グローバルフェスタ  
JAPAN2009

今年のテーマ「環境と気候変動」にちなんださまざまなプログラムが用意されています。3日には、フラワーカーペット（花びらアート）作成のイベントも（10時～15時、当日参加可能）。

- 日時：10月3日（土）、4日（日）10時～17時
- 場所：日比谷公園 ●入場無料
- 共催：外務省、独立行政法人国際協力機構、NPO法人国際協力NGOセンター
- グローバルフェスタ JAPAN 実行委員会事務局（TEL. 03-5434-8359  
E-mail : gffesta@jic.co.jp http://www.gffjapan.com）

循環・3R 活動推進リーダー養成講座  
受講者募集

ごみ減量活動を企画実践できる人材養成を目的とした講座です。

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- 【第1回】10月31日（土）  
『家庭ごみの現状を知る』／高月紘さん（石川県立大学教授）／キャンパスプラザ京都
  - 【第2回】11月1日（日）  
『3Rの考えを広める』／浅利美鈴さん（京大環境保全センター助教）／京エコロジーセンター
  - 【第3回】11月14日（土）  
『ごみを減らす活動を創り出す』／椋本育生さん（NPO法人環境市民代表理事）／京都私学会館
- \*各回とも10時30分～16時30分
- 高校生以上、原則3回参加できる人
  - 参加費：1,000円（3回通し、資料代含む）
  - 定員：25名（先着順）
  - 締切：10月26日
  - 主催：独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
  - 協力：NPO法人 環境市民
  - 問合せ・申込み：NPO法人 環境市民（〒604-0932 京都市中京区寺町二条下る 呉羽ビル 3F-A TEL. 075-211-3521 FAX. 075-211-3531

E-mail : life@kankyoshimin.org  
http://www.kankyoshimin.org/  
氏名（よみがな）、住所、電話番号、FAX 番号、メールアドレスを明記してお申し込みください。

エコポイントを GEN に  
寄付できるようになります

エコポイント制度がはじまりましたが、もう省エネ家電を購入されましたか？ 買い換えを考えている家庭にはありがたい制度ですよ。

9月から、エコポイントを環境のために活動している団体に寄付できるようになります。GEN もその寄付を受けられる「環境寄付団体」となりました。この会報がお手元に届くころには詳しいことが発表されているかと思いますが、団体や活動分野を指定して寄付することもできます。家電の買い換えを検討中の方、そういえばエコポイントを使ってないという方、ぜひご協力ください。よろしく願いいたします。